

池田 守男氏

資生堂 相談役

#134



紹介者



阪本 美貴子氏
ヒューマンラスト 代表取締役

子どもたちを巻き込んだ悲惨な事件、信じがたい衝撃的な事件が相次いでいる。企業や行政の不祥事も後を絶たない。四十年前、当時の薬師寺管主高田好胤師にお会いした際、「このままでは日本は物で栄えて心で滅びる」と言われたことがあるが、この言葉がますます現実味を帯びてきている。

戦後の目覚ましい経済発展によって、私たちの社会は物の豊かさを享受できるようになった。だが、一方で心——とりわけ、公共心を失いつつあると思われてならない。個人の尊厳はもちろんだが大切だが、そのことを強調するあまり、公の精神、隣人愛の精神が欠落してきているのではないか。そもそも公の精神、隣人愛の精神は、日本人のDNAに色濃く落とし込まれているものである。そうした精神を今一度思い起こし、次世代に引き継がなければならぬと強く思う。

わが国の将来を考えると、教育が最重要課題の一つであることは論をまたない。私自身、教育再生会議、その後継組織の教育再生懇談会の一員として教育に関わらせていただいているが、教育は人間としての権利であると同時に、国家戦略そのものであると感じている。

幼児教育への投資は公平性と効率性を同時に促進する公共政策である、という研究もある。学校と地域社会、企業が連携を深めれば、地域再生にも繋がるだろう。21世紀の大きなテーマである環境に対する教育も、「足るを知る」「もったいない」という精神とともに教えれば、徳育にも繋がり、自然との共生を子どもたちが考える契機になるだろう。

しかし、教育は何よりも子どもたちへの愛情である。

次回

若月 三喜雄氏

(アクサ生命保険 取締役会長)

に「登場いただきます。」

社会総がかりで教育再生を

る。そう考えると、教育は教育関係者だけの問題ではない。家庭、地域社会、企業、行政など、あらゆる主体が当事者意識をもって「社会総がかり」「全員参画」で教育に取り組むことが不可欠である。教育という観点からワーク・ライフ・バランスを捉えることも有意義である。そうして、愛情をもって子どもたちと関わり合うことで、知と心のバランス、個と公のバランス、そしてグローバルとローカルのバランスのとれた人を育成することが、私たち一人ひとりの使命であると考えている。